

連続市民講座

参加者募集

電気通信大学・読売新聞立川支局 共催

電気通信大学と読売新聞立川支局は2016年4月から、共催による全12回の連続市民講座を行います。同大との市民講座は初めてで、講座はいずれも、同大の一線の研究者が担当します。スマートフォンやインターネットに代表されるように科学・技術の進歩と発展により、私たちの今の生活は、かつてないほど便利になりました。でも、その技術がどんな理論で、どんな仕組みでもたらされているのか、多くの人は知らずにいます。講座では、こうした科学・技術の各分野の一線で研究する専門家が、仕組みや成り立ちをわかりやすく解説し、未来の社会も展望します。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

21世紀の先端技術から未来が広がる ～総合コミュニケーション科学からのメッセージ～

【2016年度 講座一覧(予定)】

日程	担当教員	テーマ(タイトル)
第1回 4/23(土)	福田 喬学長 児玉 幸子准教授	メディア、ロボティクス、人工知能、脳科学などの広範囲の分野で基礎から応用まで幅広く研究する電通大を紹介します
第2回 5/14(土)	中嶋 信生特任教授	スマートフォンの賢さを解説します
第3回 6/11(土)	横井 浩史教授	ロボットで実現する人の手・指・腕、筋肉や脳の電気信号を読み解く方法
第4回 7/9(土)	平野 誉教授	ホタルが光る仕組みとその利用方法を解説します
第5回 8/6(土)	保木 邦仁准教授	ゲーム人工知能はなぜプロ棋士に勝てたのでしょうか
第6回 9/10(土)	栗原 聰教授 椿 美智子教授・副学長	社会に浸透する人工知能とサービス・サイエンスが描く未来像とは
第7回 10/8(土)	宮脇 陽一准教授	脳とこころの仕組みを情報科学で解明します
第8回 10/22(土)	長井 隆行教授	赤ちゃんのように言葉を学習するロボットが誕生しています
第9回 11/12(土)	市川 晴久教授	再生可能エネルギーの蓄電だけで生活できるでしょうか
第10回 12/10(土)	米田 仁紀教授	最新のレーザーが拓く新しい科学は何でしょうか
第11回 1/21(土)	沼尾 雅之教授	物のインターネット「IoT」でヒト・モノ・コトをつないで新しい価値を創造します
第12回 3/4(土)	新 誠一教授	複雑化する電子機器の制御システムを開発しています

参加方法

参加は無料。事前申し込みは不要。どなたでも入場できますので、会場まで直接お越し下さい。8回以上出席した参加者には修了証を発行します。

会場

電気通信大学 講堂(東京都調布市調布ヶ丘1-5-1)

会場まで直接、お越し下さい。会場内での写真撮影、録音・録画はご遠慮ください。

時 間 13:30～15:00(4月23日、9月10日は15:30終了予定)

問い合わせ先

電気通信大学 総務課広報係

TEL.042-443-5019

Email:kouhou-k@office.uec.ac.jp

開催予定や会場などは変更される場合があります。その場合には電気通信大学のホームページ(<http://www.uec.ac.jp/>)にてお知らせいたします。

【交通案内】

・京王線調布駅中央口より
徒歩5分



国立大学法人

電気通信大学

読売新聞社

電気通信大学は、前身の無線電信講習所の創設から数えて、2年後の2018年に100年の節目を迎えます。この間、社会・経済の発展と高度情報化社会の進展に合わせて、専攻分野を拡充して参りました。今では、情報・電気・通信を中心とした、メディア、ロボティクス、人工知能、物理工学、光科学、脳科学など、情報理工学全般の基礎から応用に至る広範な分野で実践的な教育と研究を行っており、社会に向けた新しい価値の創造とそれを担うグローバルでイノベーティブな人材の育成に努めています。

連続市民講座「21世紀の先端技術から未来が広がる～総合コミュニケーション科学からのメッセージ～」では、本学気鋭の講師陣が、それぞれに取組んでいる先端科学・技術の社会との関わりについて、分かり易く解説します。お楽しみください。



福田 喬
電気通信大学長

福田 喬(ふくだ たかし)学長

2014年4月より電気通信大学長。総合コミュニケーション科学に関する教育力と研究力を両輪とする均等のとれた教育研究の世界拠点として、"Unique&Exciting Campus (UEC)" の実現を目指している。専門は太陽地球系電磁気学・超高層物理学。研究の中心は、地球超高層大気領域の力学とエネルギー収支。



児玉 幸子(こだま さちこ)准教授

アーティスト、研究者。情報技術と新素材を芸術に応用する研究を行っている。磁性流体を用いた作品「突き出す、流れ」で文化庁メディア芸術祭インクアティブ部門大賞、デジタルコンテシングランプリアート部門最優秀賞、日本のメディア芸術100選に選ばれる。『モルフォタワー』(日本バーチャルリアリティ学会論文賞受賞)等の作品が世界18カ国で展示される。近年、無線とセンサを組み込んだデジタルボールを開発し、スポーツとアートを融合させる取り組みを推進している。



中嶋 信生(なかじま のぶお)特任教授

自動車電話の時代から第4世代携帯電話方式の始まりまで、NTTドコモで移動通信の研究開発に従事した。アンテナや電波伝搬が得意で、大学に移ってからはセンサー用無線ネットワーク、歩行者測位、ヒューマンインターフェース等の研究にも取り組んだ。「携帯電話はなぜつながるのか」の著者。現在は産学官連携が主な仕事となっている。



横井 浩史(よこい ひろし)教授

工学の開拓する近未来は、機械とコンピュータがヒトに寄り着し、日常生活からスポーツや芸術までをサポートする世界となるでしょう。ヒトは機械と融合し新しい機能を獲得するとともに、新たな自己認識に至る。50年後の世界の基盤となる学問をターゲットに、現在の研究テーマは、人と機械の融合システム、医用福祉機械、アーバロボット、群知能、身体性知能機械など。



平野 誉(ひらの たかし)教授

専門は有機光化学、ルミネッセンス化学。ホタルやウミホタルなど発光生物が利用する光る化学反応の仕組みの解明とよく光る物質の開発を行っている。この中で、ホタルの仲間の发光甲虫が緑から赤まで様々な色の光を作る仕組みを世界に先駆けて明らかにした。世界中で応用が進んでいる発光生物由来の光る技術を基礎化学で支える研究に従事している。



保木 邦仁(ほぎ くにひと)准教授

2003年東北大学理学研究科化学専攻修了。同年よりトロント大学化学生物学博士研究員。2006年より東北大学にて研究員、助手として教育研究に従事。2010年より電気通信大学特任助教、ゲーム情報学の研究が本格的に始動する。2015年に電気通信大学准教授に着任、現在に至る。著書「ボナンザVS勝負脳一最強将棋ソフトは人間を超えるか」(角川新書、共著)、「コンピュータ将棋の進歩6」(共立出版、共著)、「人間に勝つコンピュータ将棋の作り方」(技術評論社、共著)。



栗原 晰(くりはら さとし)教授

専門は人工知能複雑ネットワーク科学。汎用性の高い人工知能や、阿吽の呼吸で人に寄り添う親しみのある人工知能の開発を目指している。そのためには、膨大な数の神経細胞による大規模複雑ネットワークである人の脳に着目し、そのようなネットワークからどのようにして活性が生まれるのかの原理を解明するが必要があり、脳科学者や社会科学者など、様々な分野の研究者と連携しつつ研究を進めている。社会基盤としての情報通信(共立出版、共著)、「翻訳能とデータマイニング」(東京電機大学出版局、共訳)、「スマートワールド」(東京電機大学出版局、共訳)、「Emergent Intelligence of Networked Agents」(Springer、共編)などがある。

私たちの生活は、様々な分野で科学・技術の恩恵を受けています。科学・技術の進歩なくして、今の私たちの生活は考えられず、特に21世紀に入ってからの生活の変化は、目覚しいものがあります。ただ、私たちはその仕組みについてはあまりにも無頓着で知らないまま暮らしているように感じます。そこで、読売新聞社は電気通信大学と連携

して、科学・技術をテーマにした連続市民講座「21世紀の先端技術から未来が広がる～総合コミュニケーション科学からのメッセージ～」を開催することにいたしました。各分野の一線で研究を続ける同大の講師陣が、先端科学・技術の研究成果をわかりやすく解説してくれることと思います。聴講する皆様にとって、現代ばかりではなく、未来も見通した科学・技術への理解を深めるきっかけになれば幸いです。



新谷 達夫
読売新聞 立川支局長



椿 美智子(つばき みちこ)教授・副学長

専門はサービス・サイエンス。特に、サービス利用者の個人差の研究を取り組んでおり、顧客タイプ別サービス効果分析システムを開発して、ビッグデータ分析に基づいて研究を行なっている。さらに、従業員タイプの違いや、顧客とのマッチングの研究にも発展している。また、学生の学習プロセスログデータ分析の研究も、興味のレベルや学習方略の使い方と学習効果に関して個人差を考慮した方法でモデル化し、成果を上げている。



宮脇 陽一(みやわき よういち)准教授

専門は脳神経科学、とくに計算論的神経科学。ヒト脳活動の非侵襲計測とその統計的信号処理解析を得意とする。これらの技術を使って、ヒトの感覚知覚システム(とくに視覚系)のメカニズムの解明と、得られた知見の工学的応用を目指して研究を行っている。



長井 隆行(ながい たかゆき)教授

専門は、知能・認知発達ロボティクス。ロボットの知能を創ることで、人の知能の本質を知りたいと考えている。また、RoboCup@Homeを運営するなど、家庭用サービスロボットの研究も進めている。カリフォルニア大学サンディエゴ校客員研究員などを経て、2014年より現職。玉川大学脳科学研究所特別研究員、産総研人工知能研究センター客員研究員を兼務。2015年よりJST CREST研究代表者。Advanced Robotics Best Paper Awardなど多数受賞。



市川 晴久(いちかわ はるひさ)教授

情報理工学研究科、情報学専攻教授。1976年日本電信電話公社に入社。通信ソフトウェア、コンテンツ配信サービス、インターネットの研究開発、事業化に従事。NTT先端技術総合研究所所長を経て、2007年より現職。2015年、再生可能エネルギーと蓄電システムの未来を探る研究センター(i-パワードエネルギー・システム研究センター)を立ち上げる。



米田 仁紀(よねだ ひとき)教授

レーザー新世代研究センター長、工学博士。強いレーザー光と物との相互作用を研究している。最近新しくできたX線自由電子レーザーを用い、世界一短波長の原子レーザーの発振に成功した。レーザーを使って極限状態を作り、実験室天文学から超強磁场発生などの応用研究も展開している。教育面では学生に危機・限界を体験させる新たな大学院教育プログラムを開発・実践している。2014年より文部科学省科学官を併任。



沼尾 雅之(ぬまお まさゆき)教授

専門は知能情報学。センサデータから人の行動認識をするデータマイニングやツイッターなどのSNSからのテキストマイニングの研究をしている。人工知能技術の実用化にも力を入れており、日本初の製鉄スケジューリングシステムや三面図からの立体合成システムの開発にも携わった。現在は、RFIDや様々なセンサを用いた高齢者見守りシステムの開発をしている。



新 誠一(しん せいいち)教授

自動車、家電などの身近なものから電力、ガスなどの生活に必須なインフラまで電子化、ネットワーク化を進めてきた研究者。現在は複雑化した電子機器を分かりやすくしていくことと制御システムのセキュリティ向上活動の理事長を務める技術研究組合制御システムセキュリティの活動などを通して進めている。「ハローPHS」(オーム社)、「図解カーエレクトロニクス最前线」(工業技術社)などの著者がある。